

2015.7月

品質月報

Monthly Quality Report

7月号 INDEX

PAGE 3 ……品質方針

PAGE 4 ……今月のトピックス

★ 今月のテーマは…
電力自由化

PAGE 5 ……品質状況

市場不良率推移 クレーム発生状況

PAGE 6 ……活動報告

コストマネジメント



SANSHIN GROUP



品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動をおこない、社会へ貢献してまいります。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを厳守し、お客様に信頼される品質の提供につとめてまいります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守をとおして品質の向上につとめてまいります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネージメントレビューをおこない、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかってまいります。

平成26年10月1日
サンシングループ
代表

石井 宏宗



今月のトピックス

電力の自由化

2016年4月より家庭向け電力小売自由化が始まります。これにより戦後から60年以上続いていた大手電力会社による専売体制が終りを迎えることとなります。日本ではすでに段階的に電力自由化への移行措置が取られており、2015年現在で国内の電力のうち約6割が自由化されています。2016年4月からは、新たに一般家庭を対象とする自由化が行われ、家庭ごとにどの事業者から電気を買ってもよいことになりました。

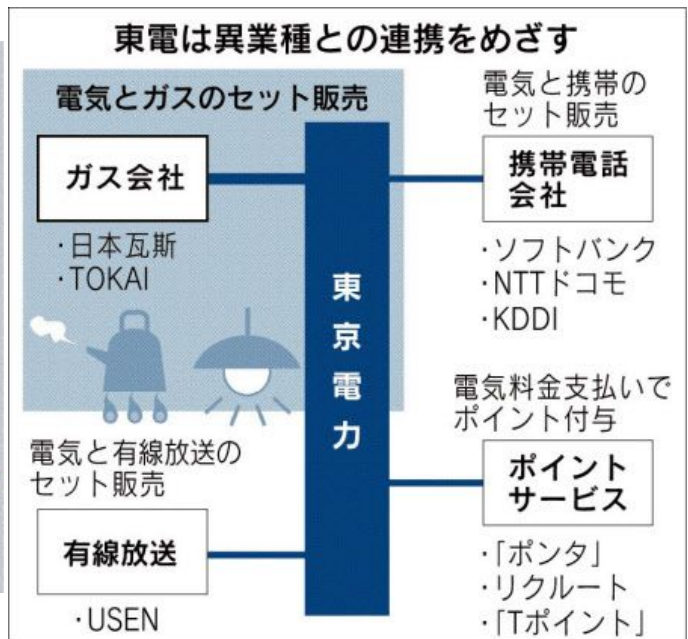
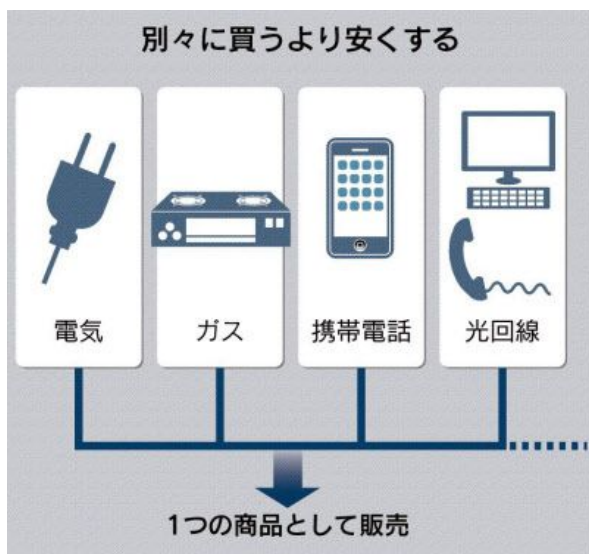
注目なのは、新電力(PPS)と呼ばれる新規参入の事業者。昨今、ガス会社や通信会社など異業種の電力業界参入が相次いでいますが、業界再編にもつながる大きな動きとなるのではないかと声も多いようです。こうした新電力の動きの一方で、東京電力、関西電力、中部電力など大手電力会社は、子会社や発電所増設による供給ネットワークの全国展開を進めており、既存の顧客を囲い込むとともに、地域の枠組みを超えた取り組みを開始しています。

ただ、新電力に切り替えたとしても、これまでと変わるののは毎月の料金の請求元だけであり、電力自体は従来通り地域の電力会社から供給されます。そのため、小売自由化により、停電が頻発したり、安定供給がされなくなったりするという心配ないとされています。

個人もどこから電力を買うか選べる時代へ

さて、今回の一般家庭向け電力小売自由化のメリットとしては、各家庭に合った電力会社を選ぶことができるということが挙げられます。新電力の参入により競争が起これば、他社と差をつけるために、供給サービスが多様化するでしょう。そのため、電力を使う時間帯や使用量に応じたプラン選択も可能になるはずで、また、携帯電話会社やインターネット回線販売会社などによるサービスでは、スマートフォンの利用料金やネット回線と電力をセット販売するなど、ユニークなプランが選べることになりそうです。

気になるのは、「料金は低くなるのか、高くなるのか」という問題。これに関しては、意見が分かれるところではありますが、強調しておきたいのは、小売自由化により電力料金が低下した国は、世界的に見ても今のところないということ。自由化以前には国が電力料金を審査し、高くなりすぎないようにコントロールしていましたが、その規制がなくなれば、天候や災害、発電に必要な燃料費の高騰などが直接、料金に影響を及ぼす恐れがあります。実際、電力自由化が進んでいるヨーロッパ各国では、燃料費の高騰や再生可能エネルギーの買取コスト増大などの理由で電力料金が上昇しています。とは言っても、現在の日本における電力料金は、諸外国よりもやや高めに設定されているのです。そのため、来年の自由化後は他社との競合により経営の合理化が進み、今よりも電力料金は下がるのではないかと予想する声もなくはありません。



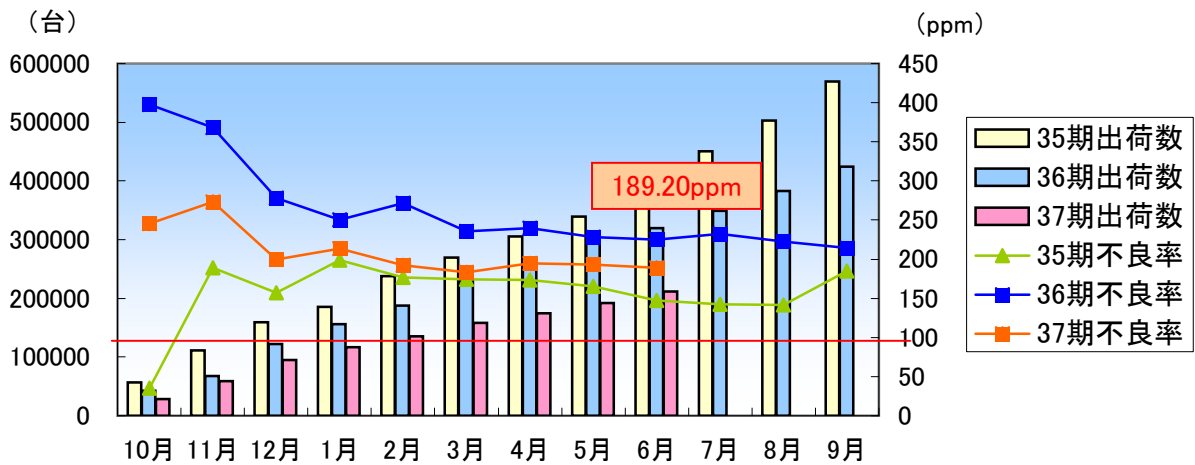
今月の品質状況

37期の旗印

納入不良率 目標.....100ppm

37期の累計不良率は**189.20ppm**です。
 市場不良累計は 40件
 前月比、不良率は微減しました。

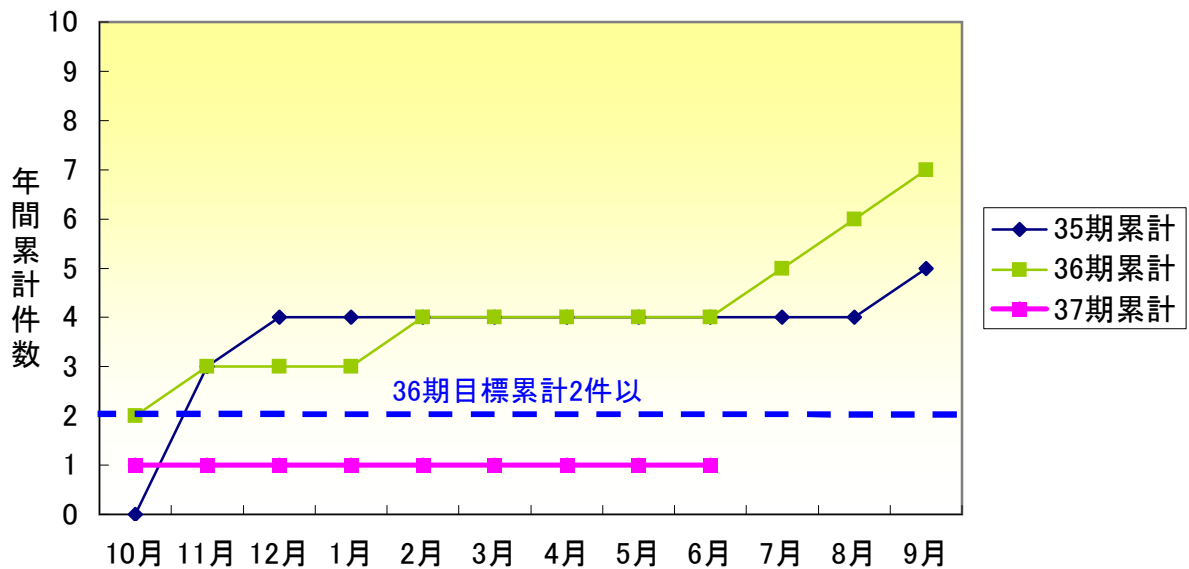
市場不良率 (PPM)



クレーム発生推移

「クレーム」の定義: 当社製品がエンドユーザー様にて使用中に
 当社の責任による原因で不具合が発生し、見直し・改修の場合

対前年度クレーム件数推移 (37期)



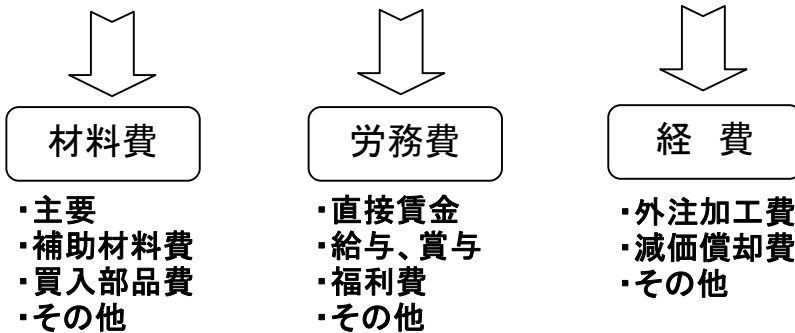
活動報告 Quality Center

<コストマネジメント>

・原価とは、何か？

「もの造り」を本業とする製造業では生産対象の製品原価を正確に分析して、その内容を十分に把握する事が重要です。原価がどうなっているのかわからなくては原価低減は望めません。原価を構成している各項目がどのように集計されてくるかを知る事も原価低減活動を展開するには必要です。

原価とは、主に材料費、労務費、経費から構成されています。



・原価分類表

原価要素を発生形態と製品との関連によって分類し、その分類を組み合わせて相互関係を示した図を「原価分類表」といい、製造原価、販売費、一般管理費、総原価の関係がわかる。労務費、経費、材料費を原価の3要素といいます。

				利益		販売価格
		販売費及び一般管理費		総原価		
		製造原価				
直接労務費	間接労務費	間製造				
直接経費	間接経費					
直接材料費	間接材料費	製造直接費				

・コストコントロール

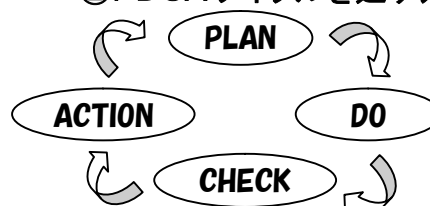
コストコントロール(統制)は、「計画したコストで造る」為に余分に掛かっているコスト(ムダ)成分を取り除く活動で、全てのコスト構成項目に注目し、予実績を比較し計画値に収めていく活動です。

【コストコントロールの2つの視点】

①分析的アプローチ

- ・区分して
- ・詳細に
- ・定量的に
- * 差異を明らかにする

②PDCAサイクルを廻す方法



- P: 標準コスト設定
- D: コストダウン活動
- C: 差異分析
- A: 是正活動